



ハートだより

香川県立高松養護学校
人権・同和教育部
2022年5月27日発行
第51号

「しあわせなとき」

校長 北村 宏美

本校に赴任して、1カ月余りが経ちました。初めての学校に興味津々。校内をうろうろとしながら、子どもたちと先生方の楽しげなトークをこっそり観察したり、時には教室にお邪魔して（控えめに！）授業に参加したりと、「高養ウォッチ」にいそしんでいます。

ある日、廊下で出会った子どもたちに、どこに向かっているのか尋ねると、図書室との返事。そう言えば、まだ図書室には行っていない・・・ということで、早速訪問。

「新刊・おすすめ」のコーナーで何となく手にとったのが「しあわせなときの地図：フラン・ヌニョ作」でした。表紙をめくると「生まれてからずっと、この町で暮らしてきたソエ。でも戦争のせいで、家族と逃げなければならなくなりました。」と、あらすじが。この数カ月、毎日のようにニュースで取り上げられているウクライナの人々の姿と重なりました。

「町を出る前の晩、ソエは机の上に町の地図をひろげて、10年の間に楽しいことがあった場所にしるしを付けてみようと思いつきます。最初は自分の家。初めて歩いて、ことばを話して、遊んだり夢を見たり、しあわせな思い出がいっぱいつまった家です。学校にもしるしを付けます。先生やクラスメイトの名前を思い出しながら。毎日過ごした教室では新しいことを習うのが楽しみでした。図書館や本屋さんではいろんな本を読んで、わくわくドキドキ想像をふくらませました。本棚は宝物がつまった場所。町のまん中にある花の咲く公園では、いっぱい遊びました。映画館や散歩した川べり、アヒルやカモにパンをやった北の橋。ソエは、しあわせなときをくれた場所に、全部、しるしを付けました。」（「しあわせなときの地図」より）

生まれ育った町に別れを告げて、先のことが見えない異国での生活。ソエのこれからを想うと胸の奥がずんと痛くなりました。そして、「しあわせなとき」は、何気ない、いつもの生活の中にあること、普段は気にもしていない日常の喜びが、とてもとても大切なものなのだということを、改めて考えました。毎日、学校で、家庭で、なにかしらのしあわせを味わえている自身の境遇に感謝するとともに、ウクライナの方々をはじめ、今、しあわせを見出すことができないでいる誰かに、一日も早く「しあわせなとき」が訪れることを祈らずにはられません。

このお話には、ちょっと不思議なエンディングが用意されています。

よろしければ、図書室で、手にとってご覧になってみてはいかがでしょうか。

ネットの向こう側には

あなたと同じ人間が

が自殺したという事件がありました。(SNS上に誹謗中傷する内容を投稿した男性1名が書類送検されています)相手の顔が見えないからと軽い気持ちで書いたことでも、書かれた人をひどく傷つけることがあります。

「未熟な言葉の使い方」がSNSトラブルの大きな原因の一つです。文字だけの会話になるため、ちょっとしたきっかけでエスカレートし、深刻な「ネットいじめ」に発展することもある。

インターネットは、使い方を間違えると、人の心を傷つける「凶器」となるのです。

ネット上の誹謗中傷(ひぼうちゅうしょう)が社会問題化している昨今、SNSなどで事実に基づかない誤った情報を流して、他人を傷つける行為が後を絶ちません。

最近では、ある女子プロレスラー

インターネットのルールとマナー

★他人の悪口や差別的な内容は書き込まない

★他人の書き込みを“あおる”書き込みはしない

★根拠のない噂(うわさ)話は載せない、拡散しない

★他人の個人情報を無断で掲載しない

人権・同和教育部

今年度の行事予定



児童生徒の人権学習

人権・同和教育学習期間

前期6月6日～17日(後期10月3日～21日)

田村文化センター文化祭(11月中旬)

校内人権作品展(11月下旬)

高松市人権作品展(12月)

人権だよりの発行

「ハートだより」(5月・10月・2月)

人権研修会・研究大会

☆四国地区人権教育研究大会(香州大会)

-(高松市 6月30日～7月1日)-

田村文化センター職員現地研修会

(8月26日)

香川県人権・同和教育研究大会

(レグザムホールほか 10月25日)

悉皆「人権・同和教育研修」

(11月24日)

全国人権・同和教育研究大会(奈良大会)

(奈良市ほか 11月26日～27日)

人権・同和教育指導者研修会

(サンポートホール 1月中旬)

☆印の大会については、PTA役員の方に参加をお願いしています。